

社会教育関係団体登録 <新規>申請の受け付け

問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2091

下記の要件に該当し、新規登録を希望する団体やグループは、申請期間内に申請してください。登録の有効期間は、承認日から平成21年8月31日までです。なお、登録済みの団体は有効期間中申請の必要はありません。

【申請期間】 12月10日～25日(土曜・日曜・祝日を除く)
【登録要件】

- ①社会教育法に基づく組織的な教育活動を自ら行い、その団体の学習活動・内容が明確であり、公の支配に属さない団体であること。
- ②団体運営については、団体に主体性があり、営利事業や政治・宗教活動を目的としない任意団体であること。特に、芸能・趣味関係団体については、活動が流派の普及活動や指導者の営利を目的としたり、またはそれに類した行為を行わない団体であること。
- ③過去1年以上の実績があり、将来も継続して活動できる団体であること。
- ④規約および経理機構があり、団体の本拠としての事務所を有していること。
- ⑤健全な自己財源を持ち、会員の会費等の負担額が一般的に見て高額すぎないこと。
- ⑥団体の活動への参加窓口を一般市民に広げていること。団体内だけの活動のみでなく、地域全体への普及啓発活動があること。
- ⑦組織の構成メンバーが、主として芦屋市民であること。また、芦屋市域を活動の拠点にしていること。

第22回 コミスク合同文化展

市内9コミュニティ・スクール会員の力作を展示します。

■日時 ①12月5日(金)午後1時～6時
②6日(土)午前9時～午後6時③7日(日)午前9時～午後3時
■会場 市民センター 多目的ホール

問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2091

谷崎潤一郎記念館の催し

問い合わせ 谷崎潤一郎記念館 ☎23-5852/☎38-3244

【ロビーギャラリー】『源氏物語54首を書く』藤田朱雀 小品展

■期間 12月3日～25日(最終日午後3時まで) ■内容 源氏物語54帖より各1首ずつ54首の和歌を「書」にした藤田朱雀の作品展

【谷崎文学朗読会】『源氏物語』朗読シリーズ 若菜その2

■日時 12月11日(木)午後1時30分～3時 ■会場 講義室 ■内容 「谷崎源氏」の朗読 ■朗読 朗読グループRST(安生直美・一花泰子) ■定員 30人 ■会費 1,000円(入館料・ドリンク代含む) ■申し込み 上記へ

【文学館講座】作家と楽しむ読書会

■日時 12月18日(木)午前10時30分～正午 ■会場 講義室 ■内容 水上勉作品 ■講師 作家・柳谷都子氏 ■定員 20人 ■会費 2,300円 ■申し込み 上記へ

ウィザスあしやの催し

問い合わせ 男女共同参画センター ☎38-2023/☎38-2175 (〒659-0092 大原町2-6)

【ゆっくり本を読む 大人の読書タイム】

■日時 12月22日(月)午前10時～正午 ■会場 ウィザスあしや ■対象 子育て中の親(祖父母含む)と子ども(2歳以上就学前の幼児) ■一時保育料 1人300円(先着8人) ■申し込み 電話または窓口へ

【男女共同参画センター健康講座】

「あなた任せにできない! 女性の健康 - 思春期、妊娠、出産、閉経 -」

忙しい毎日に追われる女性たちは、自身の健康を後回しにしがち。生涯を通じた体のサイクルについて学んでみませんか。

■日時 12月12日(金)午前10時～正午 ■会場 ウィザスあしや ■講師 神戸市看護大 学教授・高田昌代氏 ■対象 女性20人 ■一時保育料 1人300円(2歳以上就学前の幼児・先着8人) ■申し込み 住所・氏名・電話(ファクス)番号、一時保育希望の場合は子どもの名前・生年月日を記入し、電話・はがき・ファクスまたは窓口へ

【市民企画講座「心にひびく読みかきせ!」

第6回 ハハ! 絵本よんで!

■日時 12月20日(土)午前10時～11時30分 ■会場 ウィザスあしや ■講師 「絵本で子育て」センター絵本講師 ■対象 子育て中、子育て支援にかかわるかた(お父さん歓迎) ■一時保育料 1人300円(2歳以上就学前の幼児・先着5人) ■申し込み 講座名・住所・氏名・電話(ファクス)番号、一時保育希望の場合は子どもの名前・生年月日を記入し、電話・はがき・ファクスまたは窓口へ

【展示「樺本純奈 押し花展～花のこぼ～」

■期間 12月1日～25日(平日・第1土曜)午前9時～午後5時15分 ■会場 ウィザスあしや 【ワークショップ】花絵巻をつくらう! ■日時 12月17日(水)午前10時～正午 ■定員 5人 ■材料費 2,000円 ■インストラクター 樺本純奈氏 ■申し込み 上記へ

女性相談

相談予約 ☎38-2022

専門の相談員がご相談に応じます<要予約>

【女性の悩み相談】

■日時 12月6日(土)・毎金曜日、午後1時～4時 ■内容 夫婦・家族関係、心の悩みなど

【暴力(DV)に関する相談】

■日時 12月3日・17日(水)午後1時～4時 ■内容 夫や親しい関係にある男性からの暴力(DV)



出土した近代の遺物・高級洋食器の裏印

今年の七月から八月にかけて、呉川遺跡第二十二地点の確認調査が行われました。この遺跡は、元和・寛

考古学が解き明かした芦屋の近代

呉川遺跡から出土した膨大な近代遺物

永期(一六〇)年代、江戸幕府が大坂城を再建する際に、六甲山中で切り出した築城石を浜辺まで運び下ろし、大坂城へ向けて浜出する場

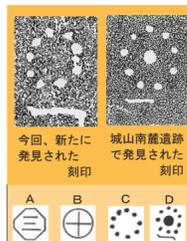
今回の調査では、事業地に大坂城築城石が埋まっているかどうかを確認することを目的として、面積一千坪に達する八本の試掘溝を掘削しました。その結果、徳川大坂城に關連する石材は見つかりませんでした。しかし、明治末から昭和初期にかけての食器や生活道具などが新たに大量に出土し、予想以上の大きな成果となりました。これらを含めると、ほとんどが陶磁器類で、そのほか多種多様なガラス瓶、骨製の歯ブラシの柄、セルロイド製の櫛、鉛筆や万年筆

縄文時代は、約九千年前の押型文土器が一点出土しました。弥生時代は生活痕跡がほとんど認められず、集落の端である様相がはつきりとわかりました。中期から後期の土器が約十地点出土しています。古墳時代後期や飛鳥時代では川が検出され、市内で最も古いとみられる埴輪片が出土しました。また川の西側では柱穴や土坑が見つかり、川の近くでも生活していた様子がありました。奈良・平安時代には川岸に多くの土器がまとまって捨てられていました。これらの中には法隆寺式軒丸瓦や四耳葺、製塩土器のように、一般の集落では出土しない特殊な遺物が見られます。これらの遺物から近くには公的な施設があった可能性が考えられます。平安時代末から鎌倉時代は、川のそばに井戸が



今回出土した小銅鐸

今春、芦屋川の右岸、鷹尾山(城山)の山すそで新たな刻印石が発見されました。調査地は芦屋町に所在し、かつてより遺跡では徳川大坂城東六甲探石場の城山刻印群が分布する場所として知られています。そこは江戸時代初期の元和・寛永期(一六〇〇～一六二九)の徳川川による大坂城再築に伴う採石場の遺跡です。地元の研究団体や研究者、本市教育委員会との連携によって半世紀に及ぶ発掘調査が行われており、これまで豊富に出土した丹波福知山藩の両儀家を使用した折敷に三文字刻印「A」や、日向佐土原藩島津家の刻印「B」が、鷹尾山山中や芦屋町・西山町・三条町などで確認されています。



今回、新たに発見された刻印

今回確認された刻印石は、長さ一七m、幅一・三m、高さ一・二m以上の花崗岩であり、総重量は三トンの程度になると推測されます。刻印は石材の形態上、最も目立つ平坦面に彫られており、採石領域を示す目印(傍示石)の役割を担っていたと考えられます。施刻されている刻印は、「二一」と「C」で、径二十cmの円形の周縁付

治二十二年に精道村が発足、昭和十五年には芦屋市が誕生しています。大正時代には、鉄道や道路など交通網の整備に伴い、住宅都市として急速に発展しました。今回出土した遺物は、ちょうどそのころに使われていたもので、芦屋の近・現代史を解明する大変重要な歴史資料です。近年、日本の考古学は、近代史を調査研究の対象として始めています。近現代には、膨大な文字や画像・映像などの記録がありますが、身近な日常生活に関する記録は、意外と残っていません。そこで、考古学や調査・研究による近代史像の復元が期待されます。今回出土した近代遺物は、今後新たな視点から、住宅都市・芦屋のイメージが定着したいきさつを、雄弁に物語ってくれることでしょう。



刻印の複製品

山手幹線開通目指し 大詰め調査成果 県下2例目の小銅鐸出土一同ビックリ!

山手幹線は、市内でもとくに遺跡が集まっている地域を通るため、平成12年度以降、工事の前には発掘調査を実施してきました。しかし、膨大な事業量で本市教育委員会では対応できないことから、神戸市教育委員会に調査を委託し進めてきました。その後、残すところは大掛かりな工事をもとに芦屋川トンネル付近のみとなっています。本市では、今年の2月から4月にかけて芦屋川トンネルの西側出入り口付近にあたる場所を調査しました。この調査で、縄文時代から江戸時代の遺構・遺物が数多く見つかりました。調査地は、月若遺跡の第96地点で、芦屋川右岸の諸遺跡(寺田・芦屋鹿寺・月若遺跡)の東端に位置します。



川のそばで検出された井戸

造られ、最終的にその中に土器や花崗岩を投げ入れて廃絶していった。この時期の川は、礫によっていたねいに護岸していたことや、また柱穴が最も多く検出された時期でもあり、一間×二間の建物跡一棟を復元することができました。

金津山古墳の後円部墳丘すべ西側の空き地は、平成二年の確認調査で、その南東部に金津山古墳の周濠が巡っていたことが分かりました。ここに、福祉施設の新築計画が持ち上がり、本市はこの工事で地中に残されている周濠が損壊することのないよう、周濠の正確な位置を把握するための確認調査を平成九年に行いました。この調査データに基づいて作成された工事計画は、周濠を避ける代わりに周濠より西側は建物

金津山古墳からの緊急メッセージ - 瞬姿を見せた二重目の周濠

金津山古墳とは、阪神電鉄打出駅の北東約150mの静かな住宅街にある前方後円墳です。前方部は鎌倉から室町時代に削られ、現在は後円部墳丘だけが残っています。これまでの発掘調査で、全長55m、後円部径42m、前方部長13m、前方部前縁幅18mと前方部が通常の前方後円墳より短い「帆立貝形古墳」と分りました。墳丘の周りに濠(周濠)も存在しています。金津山古墳には、平安時代に打出に別荘を有していた阿保親王が、飢饉に備えて黄金を埋めたという伝承があります。そのため、「金塚」「黄金塚」「金津丘」などの呼び名も伝えられています。大阪湾を臨む台地先端部にあつてその眺望は良く、海からのランドマークとして目立つ位置に作られた古墳と言えます。



1月22日に実施した現地見学会(北側から撮影)



外周濠と金津山古墳の後円部墳丘(北西から撮影)

の基礎を深くするというものでした。そこで、基礎工事によって深く掘り返される範囲に、古墳やその他の時代の遺構が残っていないかどうかを確認するため、本年一月に本発掘調査を行いました。現在の地下には、明治時代以降にかさ上げした盛土があり、盛土の下には江戸時代以来の耕作土があまりありません。この耕作土を取り除いたところ、これまで全く知られていなかった金津山古墳の二重目の濠の外周濠が姿を現しました。古墳築造から二五〇〇年以上経って、古墳の上部はほとんど削られて失われていたが、奇跡的に濠の底の部分が深さ二十cmほど残っていたのです。濠底の幅は

一・五～一・八m、調査区内で確認された長さは八mです。この外周濠は緩やかな円弧を描き、二重目の濠内周濠から約四五m外側にほぼ並行しています。内周濠と外周濠の間には本もたは中堤が存在していた幅は幅が広がって、内・外周濠の間隔も狭かったはずですが、外周濠の発掘で円筒墳が出土しました。外周濠は内周濠よりかなり浅いもので、他の調査地点ではすでに削られて残っていません。新発見の外周濠は、一月二十二日の現地見学会で公開された後、砂を使って、改めて設計変更することによって、地中に保存され、後世の人々に伝えられることになりました。

【シンポジウム「童美展が育んだもの」】
■日時 12月7日(日)午後2時～3時30分 ■会場 講義室 ■パネリスト 美術家・嶋本昭三氏、美術家・浮田要三氏、元大阪城南女子短期大学講師・窪順子氏(司会・加藤瑞穂(当館学芸員)) ■定員 先着60人(当日午後1時から整理券配布)

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432

ヒューマンライツシアター 「母べえ」

何もなくても、母の手があった。悲しくても、母の胸があった。あなたがいたから、すべてを愛せる…。山田洋次監督が描く、激動の昭和を生きた家族の物語。
■日時 12月6日(土)①午前10時30分～午後0時43分②午後2時～4時13分 ■会場 上宮川文化センター3階ホール ■監督 山田洋次 ■出演 吉永小百合・浅野忠信・櫻井い・志田未来・笑福亭鶴瓶ほか ■定員 各回先着100人

問い合わせ 上宮川文化センター ☎22-9229

第58回 童美展



■会期 12月6日～14日・午前10時～午後5時 【入観覧無料<月曜日休館>】
「童美展」は、子どもの作品を対象とした公募展です。昭和23年、市内在住の美術家たちが芦屋市美術協会を結成し、市と共同で第1回阪神童画展覧会を開催しました。同展は、昭和25年に「児童創作美術展(童美展)」と名称が変わって以後も、平成7年(阪神淡路大震災)と昨年を除き、毎年開催してきました。第1回展から変わらぬ『個々の創意を重視し、自由でたくましく魂の発展に寄与する』という目的のもと、集まってくる作品群が、館全体を熱気で満たすこの展覧会(入館は午後4時30分まで)に、ぜひお越しください。
12月15日より平成21年1月9日まで、展示替え等により休館します。

【シンポジウム「童美展が育んだもの」】
■日時 12月7日(日)午後2時～3時30分 ■会場 講義室 ■パネリスト 美術家・嶋本昭三氏、美術家・浮田要三氏、元大阪城南女子短期大学講師・窪順子氏(司会・加藤瑞穂(当館学芸員)) ■定員 先着60人(当日午後1時から整理券配布)

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432

12月 広報あしや ガイド

芦屋市広報番組 あしや30 min	放送時間 (30分)
オープニング うんじゃ隊の友	① 8:00
第2回 芦屋検定	② 11:30
芦屋市政キララ 育てよう! ブックワーム芦屋っ子 子ども読書の街づくり	③ 16:00
トピックス 第3回子どもフェスティバル	④ 19:00
障がい者とのふれあい市民運動会	⑤ 22:30
聞いてみました。日本人のふしぎ	※DVD
インフルエンザをふっ飛ばそう! 幼稚園の健康法	VTR
市民の時間 芦屋の魅力再発見② 街路樹	貸出可
エンディング 伊勢幼稚園「手のひらを太陽に」	

※「J:COM特別番組」のため、12月31日(木)の⑤の放送はありません。
※アナログ放送は9ch、地上デジタル放送は11chでご覧ください。
※番組に関する問い合わせ 広報課 ☎38-2006 ■CATV全般に関する問い合わせ ケーブルネット神戸芦屋(J:COM)カスタマーズセンター ☎0120-13-8160

芦屋病院公開講座

■日時 12月6日(土)午後2時～3時30分 ■会場 市民センター401室
■テーマ センタゲん剤治療の進歩と医療状況の変化
■講師 芦屋病院腫瘍内科部長・古林孝保氏 ■参加費 200円 ■申し込み 直接会場へ



古林 孝保氏

問い合わせ 公民館 ☎35-0700

文化財特集

考古学が解き明かす芦屋

問い合わせ 生涯学習課文化財担当 ☎319066

市内では各種土木工事に伴って、歴史資料としての記録を残すため、埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。芦屋という個性豊かな地域の長い歴史の道程を示す中の文化遺産で、これまで新しい発見や内容の更新に恵まれてきました。こうした地域的な市民共有の遺産の発するメッセージを少しでも早く伝えるために、文化財の発掘・再発見を特集します。

一八〇〇年前の小さな銅鐸の出土、金津山古墳から出土した二重目の濠跡、三条岡山遺跡で新たに見付かった古墳群。また、芦屋町からは珍しい徳川大坂城の刻印石も発見されました。臨海部の呉川遺跡では、芦屋の近代社会の生活史を物語る飲料水の容器や葉巻をほじり、大量の遺物がまとって出ました。それらを紹介します。